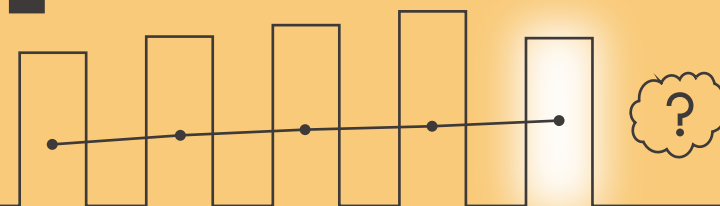


アクティビティシミュレータ

東京都市圏 ACT

～将来の人の移動・活動の変化を把握しながら
都市や交通の施策検討・プランニングに活用できます～



どんなことがシミュレーションできるの？

① 社会変化による影響

将来の社会の変化が**人の移動・活動に与える影響**をシミュレーションすることができます

例：テレワークの増加による影響

- ▶ ラッシュ時の鉄道混雑が○%緩和
- ▶ 家の近くで買い物をする人の割合が○%増加 等

② 施策の効果

個人の属性や状況等に影響を及ぼすような**多様な施策の効果**をシミュレーションすることができます

例：オンデマンド交通等の

- 新しいモビリティが普及した際の効果
- ▶ 高齢者の外出率が○%増加 等



これまでの方法と何が違うの？

- 東京都市圏ACTは、これまでの四段階推定法と異なる**アクティビティ型の交通行動モデル**によるシミュレータです
- 個々人の1日の活動・移動を表現することができるため、多様な施策が評価できるとともに、評価にあたっては、個人の活動の変化や滞留人口等の多様な切り口で影響を把握することが可能となります

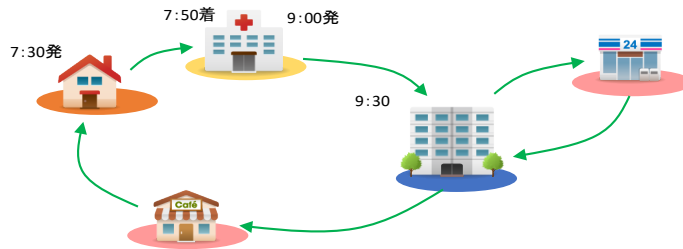
アクティビティ型交通行動モデル

概説

○各個人の様々な属性情報や地区特性、交通条件等を加味し、1人の1日の移動や活動を表現する手法

手法のイメージ

○属性、居住地、勤務地、交通条件等を考慮して、**個人の1日の活動・移動を表現する**



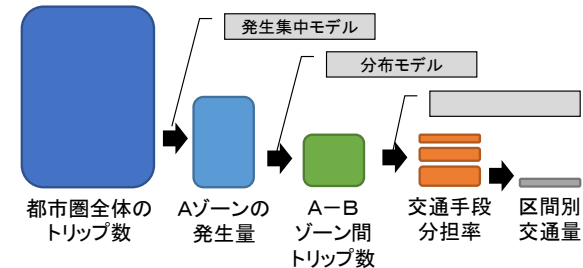
施策検討への活用

- 個人の属性や状況等に影響を及ぼすような**多様な施策の評価**に適する（乗り継ぎ施策、料金施策等）
- 外出率、原単位、活動時間、トリップチェーン**、各地区の**滞留人口**を評価可能（帰宅困難者対策など）
- 集計することで**交通量**も算出可能

四段階推定法

○都市圏全体の総トリップ数を、ゾーン及び交通ネットワークに段階的に割り当てる手法

○地区特性やネットワーク特性を考慮して、**都市圏全体の総トリップ数を振り分ける**



- 交通の**需給バランス**の分析に適する
一道路や鉄道の混雑対策（新規整備、拡幅、新線整備等）
- 交通量（トリップ数）を用いる指標の算出**に適する
一トリップ数やトリップ数に原単位を乗じる指標（CO2排出量など）

東京都市圏ACTを利用するには？

ご利用を希望される場合は、**関東地方整備局企画部広域計画課（TEL:048-601-3151）**までお問合せください
提供条件等についてご説明いたします

<シミュレータの動作推奨環境>

■OS：Windows 10 (64bit)

■PC環境 CPU：3.6GHz以上 ※計算速度の面からコア数：8以上、スレッド数：16以上が望ましい

メモリ：32GB以上

ディスク容量：100GB以上 ※一般的なデスクトップPC、ノートPCでの動作は難しいため、上記の動作環境をご確認ください